東京タワー

滝川市医師会
滝川中央病院
宮下恵一

久しぶりに東京に帰省すると最近では、羽田空港からモノレールで浜松町で降りて向こうに東京タワーが見えるとうっすらと涙が出てきます。

東京タワーは、位置的には港区の麻布と芝の境界点です。

1958年建てられて以後、半世紀以上経つのに、また高さはスカイツリーに及ばずとも、いまだその存在を主張して東京の美しい景観の１つになっていて、自分の人生の一部になってもいると感じるからです。思えば、建設中の時には、親父が自分を自転車の後ろに乗せて工事現場を見せに連れて行きました。完成後には東京タワーに一番近い小学校（区立飯倉小学校、現在は廃校）とのことで、招待されて全校生徒で見学に行ったこともあります。このとき高さ150mの第一展望台まで上りました。250mの第２展望台まで上ったのは、地元出身にもかかわらず平成になってからのことでした。

小学校では東京タワーのように堂々と生きろと言われました。東京タワーを見上げるような校庭で６年間遊びました。図工の成績は悪いのに東京タワーを描いた図画写生コンクールでは３年生時と６年生時に、全校で選ばれました。

東京タワーは夕方と夜９時にはチャイムを鳴らし、外で遊んでいてもそろそろ帰宅する時間とか銭湯に行く時間とか教えてくれました。ヨーロッパの片田舎の教会の鐘のように住民の生活の一部になっていました。

母が東京タワーの土産物売り場で働いていた関係から私の北海道への仕送りの一部にもなっていた時期もありました。

もう滝川にきて42年にもなりますが、いまだ東京タワーは私にとっては人生の一部なのです。

北大２内百年史に、麻布十番という紀行文も投稿しておりますので、機会があればこちらもよろしければご参照ください。わたしの故郷２部作です。

六十にして、、、

深川医師会
斎藤整形外科医院
齋藤眞也

孔子曰く、60歳は耳順と言うらしいことを40歳の時に知った。人の言うことを聞く耳を持つようになるのだそうだ。

昔から家内には、「あなたは人の言うことを聞かないから」と、いつも悪態をつかれていた。

齢を重ねれば、自然とそのようになっていくものと思っていた。

はたして今の自分は聞く耳を持つことができたであろうか？

この時期に書く内容と言えば、スキーのことである。小学校５年からスキーに取り憑かれたようになり、毎シーズン欠かさずスキーに行っている。気のおけない仲間もできて、泊まりがけで行くのである。この計画を立てるのが、一苦労ではあるが、それもまた楽しみなのだ。

ただ、近年は段々と難しい問題が起こってきている。

まず、体力が徐々に落ちてきて、以前のような滑りができなくなってきた。そのため２シーズン連続で怪我をしてしまい、次にやったら引退を覚悟している。

年齢と日頃の鍛錬が足りないため、怪我をしやすくなってきたことと、回復に時間を要するようになったと実感している。

また温暖化の影響で、雪の降り方や雪質もどんどんと変化して、本当に楽しい雪は一般のスキー場では１月と２月だけになってきた。

さらに、インバウンドの方々が大勢で押しかけていらっしゃるので、スキー場が欧米化してきて、昨シーズンの宿ではスタッフが英語しか喋らない。

最初はホテルマンたるもの客のホスピタリティを重要視すべきと、日本語対応を求めたのだが、すると、その度に日本語のできるスタッフを呼びに行く。つまり、その度に待たされるはめになる。しびれを切らして、自国内のホテルなのにホテルマンに気を遣って英語で対応せざるを得なくなった。その上、リフト代も高騰して１日券で１万円を超えてきた。。。

おまけに、家内がウインタースポーツを全くやらず、また冬が大っ嫌いなため、冬の不平不満をひたすら小生にぶつけるのである。

仕事柄、怪我は何としても避けなければならない。毎年のように「危うきに近寄るな」と、言われ続けているが、今シーズンもすでに予定を入れている。

斯くして、自分の耳順は、まだ当分、先のこととなるであろう。